

平成22年度第1回
公立大学法人公立はこだて未来大学経営審議会議事録

- 1 日 時 平成22年6月23日(水) 14:30～16:00
- 2 場 所 公立はこだて未来大学4階特別応接室
- 3 出席者
委 員：(学内委員) 中島理事長(議長), 岩田副理事長, 小西理事, 西濱理事,
白鳥理事
(学外委員) 市川委員, 川島委員, 嵯峨委員, 佐藤委員, 山崎委員
監 事：植松監事, 鎌田監事
事務局：川嶋経営企画室長, 鶴喰企画総務課長, 和久井財務・研究支援課長,
松塚教務課長
- 4 議事
 - (1) 審議事項
 - ① 平成22年度補正予算(案)について
 - ・事務局から平成22年度補正予算(案)について説明があり, 原案どおり了承された。
 - ② 平成21年度決算について
 - ③ 平成21年度業務実績報告書について
 - ・事務局から平成21年度決算および平成21年度業務実績報告書について, 決算概要, 財務諸表, 決算報告書, 事業報告書および業務実績報告書に基づき説明があった。また, 鎌田監事から監査結果の報告があった。
 - 各委員
 - ・決算総括表中の研究費の繰越は, アクティビティが低いためなのか。
 - ・財務諸表中の収益処分について, 法人が自由に使えるものになるのか。
 - ・業務実績報告書中の大学院博士前期課程において受験生が受験しやすいように受験科目の変更を行ったというのはアドミッションポリシーによるものなのか。
 - ・業務実績報告書中の戦略研究費を特別研究費と統合し, 予算配分を弾力的に行ったというのはどのような意味なのか。また, 外部資金を獲得した教員に対し一般研究費を増額したとのことだがどのようなものなのか。
 - 理事長・理事
 - ・決算総括表中の研究費の繰越については, 奨学寄附金部分であり, アクティビティが低いため繰り越すものではない。

- ・財務諸表中の利益処分については、函館市との間で今後調整することになっているものである。
- ・大学院博士前期課程での受験科目の見直しについては、アドミッションポリシーによるものではない。
- ・戦略研究費と特別研究費の統合による予算の弾力的配分については、学内の競争的研究資金である両研究費について、申請側、審査側ともに境界にまよるところがあるため、統合し予算の総枠の中で弾力的に配分したというものである。また、外部資金を獲得した教員に対する一般研究費の増額については、外部資金のうち15%の間接経費の中から3分の1相当を、当該教員の一般研究費に上乗せするというものである。

以上の議論ののち、平成21年度決算および平成21年度業務実績報告書について原案どおり了承された。